

豊岡市教育研修センターだより



豊岡市教育委員会 R4(2022).10.21
豊岡市のホームページにもアップしています

No.6

演劇ワークショップ②

1回目のワークショップとの違いは、

- (1) 何に変身したの? ⇒ 何をやってるの?
(なりたいもの ⇒ 動き)
- (2) 自分で決める ⇒ くじで決まる
- (3) 個人で表現 ⇒ グループで表現
することです。

さあ、演劇WSを覗いてみてください。

ここで問題です。次のグループはどんな「動き」を表しているでしょうか?

ファシリテーターの関わり「失敗は宝物！」

練習中に、どこからかファシリテーターの声が聞こえてきました。

「私には何をやっているか、分かんない…」
次につながる言葉は?

(1) 「ここは面白い、こっちは〇〇してみたら？」

(一生懸命に話し合っているグループのメンバーとよりよく表現する方法(改善策)を一緒に考える)

(2) 「何でうまくいかないだろう？」

(積極的に活動していないグループのメンバーと、何でうまくいかないのか(原因)を一緒に考える)

どちらも、活動のプロセスをしっかりと観ていたからこそできる関わりですね。

○両サイドの二人が腕を大きく回しています。

○二人の間に、複数の子どもがタイミングを合わせて入ってきます。

○外の子どもの腕の動きと、中の子どものジャンプのタイミングが見事にシンクロします。

ICTを活用して 「個別の学び」と「協働的な学び」をつなげる

先日、情報教育に係る研修会に参加しました。
その一部を紹介します。

兵庫県内教育研修所連盟
情報教育研究協議会より

子どもたちが教えてくれる教員に必要な資質・能力

子どもたちに聞いてみました。

「ICT機器を使ってみて「大切だ」「効果がある」と思うことは何ですか？」

(ICT CONNECT21&パナソニック教育財団

『GIGA スクールの施策による1人1台端末に対する認識と教員研修のあり方に関する研究(報告書)』より)

園田学園女子大学
堀田先生の講義より

○「必要な情報をインターネットで検索して見つけることができる。」

⇒ 子どもたちが、自ら探究する課題を見つけ、解決するにはどんな情報が必要かを考えてICTを活用するスキルを身に付ける。活動を振り返り、次の活動につなげる力(自己調整力)を身に付ける指導を行う必要があります。

○「授業中に友だちと考えを共有する。」

⇒ 対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい考えや納得する考えを生み出す力を身に付ける指導を行う必要があります。(ICT機器を使わない授業でも大切!)

○「友達を書いたり作ったりしたものを大切にすることができる。」

⇒ この項目の他にも情報モラルに関する項目を挙げている子どもが多い。繰り返し指導する必要があります。